

## 会 議 録

会議の名称	平成26年度 第2回茨木市産業振興アクションプラン推進委員会
開催日時	平成26年 10月 16日 (木) 午前 10 時 開会 正午 閉会
開催場所	茨木市役所 本館 6階 第2会議室
議 長	中森 孝文 氏 (龍谷大学 政策学部 教授)
出 席 者	中森孝文氏 (龍谷大学 政策学部)、野口義文氏(立命館大学 研究部・産学官連携戦略本部)、近藤正典氏 (中小企業診断士)、小林豊和氏 (茨木商工会議所)、小牧義昭氏 (北おおさか信用金庫)、前田幸子氏 (商業事業者)、高石秀之氏 (工業事業者)、西村庄司氏 (農業事業者)、大川智恵子氏 (公募市民) 山田理香氏 (公募市民) (10人)
事 務 局	徳永商工労政課長、村山同課商工振興係長、河原同課企業支援係長、白木同課職員、武部同課職員、三菱UFJリサーチ&コンサルティング 美濃地 (6人)
議題(案件)	(1)産業振興アクションプラン推進事業の報告 (2)来年度のプランの見直しに向けて
配布資料	<ul style="list-style-type: none"> <li>・資料1 これまでの事業の取組状況</li> <li>・資料2 産業振興ビジョン策定後の環境変化等</li> <li>・資料3 茨木市産業振興アクションプラン推進事業スケジュール (案)</li> <li>・資料4 平成26年度 茨木市産学連携スタートアップ支援事業補助金審査結果</li> </ul>

## 議事の経過

### 1. 開会あいさつ

委員長：（開会のあいさつ）

### 2. 産業振興アクションプラン推進事業の報告

事務局：（資料1・2説明）

#### <質疑・意見等>

A委員：課題が山積みと感じました。これをどうやってやるのか、担当者の人数がどれだけいればできることなのか、庁内で農林関係ともどう連携しているのかは、わからないのですが、市民の力も上手く活かして一緒にやっていくことを考えなければ、行政だけでは無理だと思います。

B委員：やっていること自体は分かります。何人のスタッフでやっているのか、成果が出ているのか、最終的な結論、どういうことを目指しているのか、分かり易く説明してもらえると良いと思います。

委員長：体系には大きな分類が3つあります。

- ① 事業者の活力を増していこう、
  - ② 市民生活や地域社会を支える機能の充実、
  - ③ 産業を活性化させる基盤の力、という3つの柱があり、それぞれにいくつかの施策が挙げられています。そして、それぞれに課題があるということを説明されました。
- その上で、時代が変化していることを検証しました。

C委員：説明にあった「5大プロジェクト」とは何ですか。

事務局：5大プロジェクトの資料を回覧します。

（新名神の開通、彩都の開発進展、立命館大学大阪いばらきキャンパス設置、  
（仮称）JR総持寺駅周辺開発、安威川ダムの整備）

### 3. 来年度のプランの見直しに向けて

事務局：（資料3説明）

#### <質疑・意見等>

委員長：市としては、「こういう方向でやりたい」ということを今の段階で提示するのではなく、皆さんの意見を聞いたうえで、考えたいというお話でした。

「ここをこうしたらよいのではないか」という意見をお伺いしたいと思います。

D委員：資料1について。

色分けをされていて分かり易く、色分けの基準も下に書いてあります。（重点施策、重点施策に関連する施策、現行施策、検討を要する施策）。これらについては、コア、サブコア、ベーシック、チャレンジなどと、分かり易く表現したら良いのでは。また、見出し的なキャッチフレーズを付けた方が分かりやすいのでは。それから、それぞれのフェーズ（区分）において「1活力」、「2快適」、「3活性」と、コンセプトが明確です。短いキーワードを付記し、ここのフェーズであると紐付けて表現すると、見る人にとって分かり易いのではないのでしょうか。

内容については、資料1の1ページ、◆印のところが、お悩みのところだと思います。「クリエイターと事業者との交流機会の充実」というのは、クリエイターが地域的にたくさんいるわけでもないですし、ビジネス交流会の事業のところへ含めては。

また、たくさん項目があるよりも、同内容に近いものはまとめてはどうでしょうか。

「チャレンジショップのインキュベーションスペース」について。

立命館大学のびわこ・くさつキャンパスの開設時、商店街の空き店舗やお年寄りの1人住まいが多くなるなど過疎化が進んでいました。そこで、空き家マップを作り、お年寄りと学生がいっしょに住んでもらうことを検討したりしました。

空き店舗に学生が住む。夕方は店ひらく、そこで生活させたらどうでしょう。学生に店舗を運営させるというよりも、そこで衣食住をさせ、住まいを主として賃貸する。全部の店舗は無理でも1割ぐらいいは、試しでやってみてもよいのでは。

また、市内には他の大学もあります。「大学の新規立地の機会活用」とともに「既存の大学との連携強化」も課題として入れた方がよいと思います。立命館大学大阪いばらきキャンパスのことでいえば、8割方できています。私は研究施設の担当なので、市民の方に来てもらえて、産学連携や市内企業の海外進出にもつながるような開放的なスペースにする予定です。

それから、広報・情報発信はとても重要です。広報機能が個々で分散しているように思います。部局も分かれています。産業振興の情報発信や広報のあり方を効果的に考える（ターゲット別、業種別、期間別など）とよいと思います。

委員長：大学をうまく活用したらどうかというお話でした。

クリエイター育成・連携、空き店舗対策、海外との連携など、解決できることもあるのではないのでしょうか。

E委員：資料1の「◆」印の施策は、未実施ということだが、実施しているものもあるので、もう一度見直してはどうでしょうか。

また、大学にうまく便乗して、活性化できるとよいと思います。交流する場所が常にあつたらよいと思いますが、市が独自につくっても活用されないかもしれません。大学なら、ついでに寄って情報を得ることもできるので有効なのではないのでしょうか。

F委員：茨木市は、いろいろな支援事業をされていると思います。

吹田市は、創業支援が全国トップクラスで、それを凄くアピールしており、最近、「健康の街」とアピールしています。

茨木市もいろんなことされていますが、「一押し」があつてもよいと思います。商店街の活用なのか、大学との連携なのか、スイーツでもよいかもしれません。

委員長：「これだ」という茨木市の特徴を出していくことが大切ですね。

G委員：私たちも、来年4月から立命館大学内に拠点を構えることになりましたが、「特徴を出す」という考えの1つとして「『産学連携の街』茨木」なども考えられると思います。

市内には、彩都ライフサイエンスパークがあり、月1回訪問していますが、その中には大学との連携を希望しているベンチャー企業も多いです。（現在は、大阪大学と連携している企業が多い。）

A委員：少子高齢化、グローバル化は、大きな課題ではないのでしょうか。

5大プロジェクトのような大型土木事業は、当面は活性化もつながりますが、将来的には持続しません。

それよりも、地元の産業を活性化させることを考えないといけないと思います。高齢化が進むということは、近くで働きたい人が多くなるので、そういうことに力を入れるとよいのでは。コミュニティビジネスや、学生を取り込むなど。また、日本の食文化、芸能、文化、風俗を今の若い人にも伝えたいし、グローバル化でそういったことが面白く感じるかもしれません。

また、「茨木おいもプロジェクト」は頑張っていると思います。最初の方の説明に、「地元産の大豆・米を使った、みそドレッシングの試作」とありましたが、市民に呼び掛けて、大豆を作るところからみそづくりをするなど、大豆も地元のものとしてブラン

ド化していけたらよいと思います。

H委員：空き店舗の活用についてですが、まちづくり市民ワークショップに参加した時に、以前取り組んでいた「チャレンジショップ追風」（追手門大学の学生による、市内商店街におけるチャレンジショップ）をもう一度、やってみたいと言う声もありました。やり方が分からないというだけで、意欲的な学生が多いようです。

最近では、貸会議室（時間貸しなど）、貸店舗、貸家も流行っています。

商店街の中にあれば、「何かやりたいけれど場所がない」という人や、「持ち込みでやりたい」という人も、利用できると思います。

委員長：京都では、町家を活用した「町家キャンパス」をつくり、学生に街の活性化を考えさせるような使い方もしています。

I委員：個人的には、支援の必要性に疑問があります。あまり支援すると長続きしない。そして、自分たちの力を出していけなくなる。試行錯誤してやっていく力があるからこそ、事業として続いているのであって、事業者にはその力があります。自立的・自立的に成り立つことを考えた支援策が重要だと思います。

また、皆さんとは切り口が違いますが、茨木をより魅力的なものにするには、「今あるものを、いかに楽しむか」が重要だと考えています。

たとえば、元茨木川緑地は、川をそのまま埋め立てているので、自然なカーブを残した緑地帯になっています。市の中心部にそんなものがあるというのは珍しく、文化的財産だと思います。作り込むのではなく、「今あるものをいかに活用するか」が重要。音楽が聴こえてきたり、芸術作品や雰囲気のあるベンチが置いてあるなど、アートと結びつけて、元茨木川緑地という文化的財産を活かした楽しみ方を提案していくことでも街の魅力が増します。

産業活性化というプランに合うのかどうかわかりませんが、今あるものを市民の方々それぞれの見方で楽しむことによって、茨木で暮らすことが豊かになるという捉え方もあると思います。

委員長：茨木にはいいところ（文化的財産）があるので、その活用を考えたらどうか、というお話でしたが、そういうことはクリエイティブな話にもつながっていきます。なにも映画監督や漫画家だけがクリエイターではありません。生活を良くする提案をするのも、クリエイターの役割だと思います。

B委員：私に関わるとしたら、サツマイモのことくらいですが。

スイーツフェアでは、参加店の目的は自分の店の知名度を上げること。農家は、需要が増えることを期待しています。お付き合いで参加しますが、今の状況だと、手間の方が多いように思います。もっと商業ベースに乗せられると良いのですが。

農業で跡継ぎがないのは、「食べられないから」です。補助金をもらっている間は良いが、なくなったら食べていけない。補助金でいろんなことをして、税収があがっても、また補助金を出さなければならないなら、「何もしなくても同じ」とならないか。田んぼは生産緑地で、税金を安くしてもらっていますが、施設園芸をしている人は、工場扱いなので、宅地並みに課税されては続きません。そのあたりを考えてもらいたいです。

委員長：茨木では農地を貸すということはないのでしょうか。

京都では、後継者がいない農地を借り上げて、貸すベンチャー企業があります。

B委員：「どこの誰か知らない人には貸せない」という考えがあります。貸したら返ってこないのではないか、という不安があるので。農協や市役所など公的な機関が借りてくれるのであればよい。（農協など）ある程度のところがとりまとめて、労働力としてきてもらい、会社員として農業をするようにしないと、遊休地は解消しないと思います。

C委員：製造業の立場からすると、自分の仕事だけで、待っていても駄目。自分たちも体力を

付けながら、地域や大学と連携しながらギャップを埋めることが必要だと思います。

ただ、茨木の製造業、事業所はどこも同じということではないので、会社ごとに「連携しても良い」「新しいことしても良い」と思えるものがあれば良いと思います。

また、大学等と連携できれば、楽しいと思います。補助金でも「こんな使い方ができるのか」など気付きます。すばらしいと思いますが、ものづくりの会社が「そこに取り組んでもよい」と思うには、その速度に追いつくことが必要です。そうすれば、ここに書いていることも生きてくると思います。

委員長：青年部とか、自主勉強会に取り組んでいる例はあるのでしょうか。

C委員：商工会議所で勉強しているところはあります。

委員長：人材の確保は大変だと思いますが、いかがですか。

C委員：若い人を中心に新しいことをしたら良いと思います。年配の従業員もそれを見て賛同するかもしれません。採用しても定着しなかったり…ではいけない。人材を育てるところで、地域とうまくかみ合えば良いと思います。

委員長：大学生は中小企業のすごいところ（技術等の強み）を知らないことが少なくありません。伝えることが大事です。大学だけではなく地域全体として、茨木にはすごい会社があり、働き甲斐があるのだということを伝えていくことは大事です。経営者の方々も、従業員は働けばいいということではなく、創造的なことをしてもらうために、経営者も経営や心理の勉強をするようなところでも大学と連携できたらいいのではないのでしょうか。

委員長：幅広い施策を実施されていますが、成果が分かりにくいように感じます。

今後の方向性としては、メリハリをつけて、統合できるものは統合しては。

この中には表れていませんが、地域の強みなどがうまく付加価値につながっていく事業を入れられれば良いと思います。スクラップしながら、充実することが大事でしょう。

他に、茨木市を見て、ここに力を入れるべきということはありませんか。

F委員：「これが欠けている」ということはないと思いますが、「これに特化する」というのが必要ではないでしょうか。

E委員：企業の心をつかむことができれば良いと思います。腹を割って話ができる、夢を語るような関係になれば良い。的確に反応もできるようになります。

G委員：私は委員ですが、同時に事業の実行部隊でもあります。商工会議所の職員は全部で13名、そのうちの6名ほどで事業を担当しているので、実際のところは大変です。

業務でいろいろな相談を受けますが、最近、企業同士や、企業と専門家・支援機関に「つなぐ」という場面が増えていきます。したがって、企業と企業を「つなぐ」、求人・求職マッチングのような人と企業を「つなぐ」、人と街を「つなぐ」ということが産業振興のキーワードになると思います。

委員長：つないでいくためには、お互いの信頼感を高めることが大切で、それを持続させていくことが大切です。ネットワークを上手に作り上げながら、成功事例を出していくことが大切。企業リストだけを作るのではなく、「つながった事例」の発表会などをしてはどうでしょう。

F委員：ビジネスマッチングや交流会は独自でやっています。「単なる展示会」で終わることはやめようと思っています。いろんなかたちで、市と一緒にできれば良いと思います。

委員長：市のスタッフも限られています。支援している機関はたくさんあるので、それをこの中（アクションプランの枠組）に入れ込んでいけば良いのでは。

大学との連携の仕方もよく考えてもらえればと思います。

また、アグレッシブに頑張るところと、地道に頑張るところを整理してもらえたら良いですね。

D委員：本プランの狙いとして「広角打法」で打率（個々のプランの達成率）を狙っていることは分かります。ただ、大きな成果を得るには、波がくるので、その波（チャンス）を確実にものにすることが重要です。

立命館大学大阪いばらきキャンパスには、日本の大学で初めて商工会議所が入ることになっています。学生を教えるのは、先生だけではない。例えば「茨木活性化道場」を商工会議所に作ってもらって、学生に初段から5段まであるテーマの習熟度を段位として付与し、メリハリを付けて学ばせるといったアイデアも考えられます。

委員長：政策は、決まったことを羅列するだけでなく、発展的に想像できるように表現することが大事です。そういうことも考えていただければと思います。

事務局：数値目標についてご意見ををお願いします。

これまでは「何件やる」といった数値目標を定めていませんでした。産業振興ビジョンの基本的な考えとして「つながりを大切に」するということがあったので、先方のご都合もあることから、敢えて数値を掲げていませんでした。

一方、時代の流れとして、計画を作るとなると数値目標を掲げるのは当たり前とされる考え方もあるのですが、いかがでしょうか。

D委員：数値目標の設定の仕方として、①分母分子の比率（質で示す）、②時系列的な伸び率（進展を示す）、③単純な件数積み上げ（量で示す）で見る、と3つが考えられます。

どれを適用するのは、事業によって異なります。どの事業にどの目標設定を当てはめるのが適切かを考えるべきで、それを検討してもらえればと思います。

E委員：現在のアクションプランを策定する際に、数値目標を入れるかどうか議論がありました。目標を定めても、市の政策との関係が示しにくい。企業の努力や、経済状況など、色々なことが影響して数字が変わってしまうことの方が多いのではないかと。数値の前に「こうなりたい」というストーリーが必要だという考え方でした。ストーリーの先に数値がきた方が良いと思います。

G委員：数字で表せないものは、成功事例を示すなどすれば良いのでは。

C委員：「これをしたらこうなった」ということは言いにくい。こちらで行動することは「何件やった」などは言えますが、成果としては本当にそのプロセスがあったからその成果が出たのかは示しにくい。

F委員：「補助金を何件出した」とか、結果を求めるために数字を作ることになってはいけないので、無理矢理答えを出すのは良くないと思います。

委員長：ただ、何も目標値もないのも良くない。途中の努力の過程が分かるようなものを指標として掲げると良いと思います。

「起業が何件起こった」というのも「因果関係」や「どの期間ではかるのか」など、不明瞭なところがあります。短期的ではなく、もう少し息の長いことを考え、工夫をして数値を作るとよいと思う。

産業振興はベンチャー的要素もあるのが事実。失敗することもあるかもしれません。企業の経営戦略でも、経営目標を掲げていても途中で何が起こるか分かりません。それに合わせてフレキシブルに対応しながら経営していくものであって、数値を絶対視すれば無難なものしか掲げなくなります。行政、産業振興もそういった要素を取り入れて、数値目標を掲げたら良いのではないかと思います。

#### 4. その他

事務局：次回委員会について

来年3月に予定しています。

早めに日程調整をさせていただきますので、よろしくお願いいたします。

産学連携スタートアップ支援事業補助制度について

<平成26年度>

5月1日～6月13日：申請受付

6月26日：審査部会開催（プレゼンテーションの実施）

7月3日・9日：3件の交付決定（資料のとおり）

（今後の予定）

平成27年3月：実績報告書の受付、交付額の確定

4～5月：補助金交付

<平成27年度>

制度を拡充するという方向で考えている。（連携先の大学・予算）

それでは、以上をもちまして委員会を閉会いたします。

ありがとうございました。